



国際交流員 鄭 恩哲

中国吉林省琿春市出身
1974年生まれ。独身

聞き手 : 秋田の第一印象は？

鄭国際交流員 : 綺麗で、非常に整理的な街並みが特徴的。また、非常に静かで、暮らしやすいと感じている。秋田の人は皆、表情が明るくビックリした。

聞き手 : 秋田県といえば何が有名とのイメージを持っているか？

鄭国際交流員 : 秋田といえば、リンゴ、酒、米が有名と聞いている。

聞き手 : 鄭交流員にとって、秋田の気候は寒いのでは？

鄭国際交流員 : 出身地である中国吉林省琿春市は、ウラジオストクから181kmの距離にあり、もっと寒いので、秋田の気候は全く気にならない。

聞き手 : 秋田に住んで一番苦労することは？

鄭国際交流員 : 1年前にも在日経験があるので、殆ど苦労はしていない。
敢えて言うなれば、年配者の方言が聞き取れないこと(笑)

聞き手 : 鄭交流員は、ロシア語が堪能だと聞いているが・

鄭国際交流員 : ロシアのハバロフスクに3年、貿易会社社員としてウズベキスタンに2年住んでいたが、まだまだ勉強しなければならないと考えている。

聞き手 : 秋田県とロシア等の貿易についてどう考えているか？

鄭国際交流員 : 日本で今一番足りないものは、資源であると考えている。私の出身地の吉林省は港を持っていない。それと比べて、秋田県は素晴らしい港湾施設を持っている。北海道を除くと、日本で一番、中国やロシアに近い港であると言えるのではないかと。もちろん、貿易には様々なルートがあるが、資源を運搬する資源港としての役割を担うことが出来るのではないかと。

聞き手 : 最後に、商業貿易室の最近の仕事は？

鄭国際交流員 : 来たばかりでまだ分からないが、仕事には非常に興味を持っている。
早速、地元中国から代表団が来ることとなっているので、まずはその通訳に精一杯取り組みたい。

聞き手 : これから宜しく御願い致します。

鄭国際交流員 : 宜しく御願い致します。